

企画展

Coming Soon

歌心と絵ごころの交わり

二豊路 漂泊の画人 佐藤 溪 と 俳人 種田山頭火



(左)高橋 鴿子、写真の油彩は「富士忠像」。(右)大分県立美術館 館長 新見隆。

対談

新見隆 × 高橋 鴿子

画家・佐藤溪(1918-1960年)と、俳人・種田山頭火(1882-1940年)の歩みを旅という視点から紐解き、絵と言葉の両面から辿る展覧会。佐藤溪という人物に魅せられ、自らの手で美術館を運営した高橋 鴿子さんと、大分県立美術館館長・新見隆に、その魅力について語っていただきました。

担当 芸員
吉田 一
から
一言

個性あふれる人物画から詩情ゆたかな風景画まで、変化に富む佐藤溪の作品と、山頭火直筆の書や句を一緒に並べるのは初の試みです!

新見隆(以下新見) 高橋さんと佐藤溪の出会い、湯布院の『佐藤溪美術館』でしたよね。
高橋 鴿子(以下高橋) 美術に見識のある知人から、湯布院に佐藤溪という画家の美術館ができたという無名だけど、この人こそ真の芸術家だと言われ、美術館へ足を運んだのが始まりです。当時、施設を運営していたのは(佐藤溪の)弟の和雄さんでした。
新見 初めて絵を観たときの印象はどうでしたか?
高橋 私は子どもの時から絵が好きでよく美術館に通っていたので、昔から好きな絵も多いのですが、あの日の感動はいつもと全く違っていましたね。戦慄を覚え、本当にその場にへたり込んでしまいました。1人の画家が描いたものとは思えないほど表現が多様で、繊細であつたり大胆であつたり、暗く怪しい絵もあれば明るく元気な絵もあり…。その変幻自在な自由さに強く惹かれたのだと思います。
新見 いちファンとして溪の作品に惹かれていた高橋さんが、彼の作品を収集し、最終的に自らの手で美術館を立ち上げるようになった経緯は何だったのでしょうか。
高橋 出会いから2年が経った頃、知人を通じて溪の絵が売りに出されているのを知りました。せっかく1箇所にとまったら作品が、売られて散逸してしまつては後世に残すことができない…。と残念でなりませんでした。そのとき夫がある提案をしてくれたのです。「鴿子がそんなに好きなら、『聴潮閣』(昭和初期、夫の祖父高橋欽哉が別府市に建てた近代和風建築・登録有形文化財)を美術館にしようか」と。この歴史ある名建築をどのような形で一般公開するか迷っていたため、当時の私は天にも昇る思いでした。けれどその後、溪の最期の地・湯布院の

方々が作品を地元に残しておくことを望んでいると知り、湯布院に美術館を造り、1991年から20年間運営しました。そして2013年、当初の計画通り聴潮閣に『佐藤溪美術館』を開館。ところが大分遺産である建物の保存策を講じなくてはならず、残念ながら2015年に閉館しました。
新見 溪という人物はとてもユニークな画家であり、湯布院で生涯を終えるまでの間、全国を放浪しながら絵を描き続けています。けれどなかなか日本美術史の表舞台に立つ機会がなかった。そんな彼の知られざる画業を、多くの人に顕彰すべく立ち上がったのが高橋さんですね。
高橋 結果的にはそうかもしれませんが、50代・専業主婦だった私が、まさか美術館の館長になるなんて思ってもいませんでした。溪は21歳から陸軍の兵隊となり、終戦の翌年復員した時は27歳。青春のほとんどを戦地で過ごしています。その悲惨な体験が彼の深層にあって、一連の不思議な作品群を生み出していると思われまふ。それと同時に、戦後の高度成長期に日本全国を放浪しながら、市井の人々やありふれた風景を、詩情豊かに数多く描いています。細かい描写や繊細なタツチの鉛筆画があると思えば、子どもが描いたように大胆で粗いタツチの水彩画や油彩画があります。
新見 溪は詩も書いていました。昭和のモダンな作風は、やはり時代の空気を受けて生まれたものでしょうか。洗練さはあるが、各地を放浪する中でやや自らの境遇や旅を謳っているというのか。純粹な心を持って余す、青春詩人のような輝きが見えます。
高橋 溪は復員後に画家ではなく、詩人を目指していた時期があります。その素朴なのに哲学的な詩に感動する方が多いのですが、私は彼の絵にも、詩を感じるがあります。展覧会

Data

歌心と絵ごころの交わり 二豊路 漂泊の画人 佐藤 溪 と 俳人 種田山頭火

【日時】2/9(金)～3/11(日) 10:00～19:00 ※金・土曜は20:00まで(入場は閉館の30分前まで) 【休展日】なし 【会場】大分県立美術館 3階 展示室B 【料金】一般 500(300)円、大学生・高校生300(100)円 ※()内は20名以上の団体料金
【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500

関連イベント

- ギャラリートーク …… 2/10(土)14:00～15:00、2/23(金)16:00～17:00、3/10(土)14:00～15:00 会場:大分県立美術館3階 展示室B
- 座談会 …… 2/18(日)14:00～15:30 会場:大分県立美術館2階 研修室
- ワークショップ …… 3/ 3(土)14:00～15:30 会場:竹田市公民館 竹田分館

に来られた方には、絵と詩を共にゆっくり鑑賞していただきたいですね。
新見 生前は出会うことになかった溪、山頭火の2人を僕らの意図で引き合わせたのが今回の展覧会。共に大分を放浪した画家と俳人であり、詩魂のようなものも共通していると思います。
高橋 溪は山頭火が35歳のときに生まれました。年齢も育った環境も違いますが、放浪しながら見聞きしたものに2人が感じる優しさには、どこか通じるものがあるような気がします。実際には出会わなかったと思われまふが、山を背景に田園の中に山頭火風の雲水が2人、かなり離れて歩いていく水彩画があります。その舞台は中津なのですが、山頭火は中津にも何度か滞在していますし、想像を逞しくすれば、溪はその絵を描くことで出会いを求めたのかもしれない。

[主催]公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館 [共催]大分合同新聞社 [後援]大分県、大分県教育委員会、西日本新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、大分ケーブルテレコム株式会社 [協賛]CTBメディア株式会社、大分みらい信用金庫 [助成]一般財団法人地域創造